大道芸通信

編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄　(daidogei@kib.biglobe.ne.jp) http:// daidogei.seesaa.net

京都の物売り（『風俗画報』）

京都の物売りは『風俗画報』第三百五十二号（明治39年二月）に載す。今は見ることのない行商笛も脳裏を覗いて見ることにしよう。

山紫水明の旧都　物売風俗　仕の如く網を曳くもあり、にさへ俳味あり。祇園会を　又普通の車もあり。東京の豆見れば京都気質を解すべく。　腐売りの如く(なまあげがん静けき朝遠く又近く「花い　もどき)又　当時云ふ、午のリまへんか」の若き美音は　日を殊更に(狂は午の日)など忽ちにして京都趣味を感ず　大呼びする者無し

べし。洛中に京美人、洛外　○飴売　硝子張りの屋形、ト四季折々の名勝あり。東西　タン板の唐破風作り.何れも

を対照の風俗視察も面白く、　美しき車を曳き鈴を鳴らして先づ支柱に於ける物売の小　飴を売る老爺。子供相手の商風俗をものしぬ。　売なれば、市中の端々に多く

○焼栗屋　是は夜店、祭日　見掛く

等に　出店する　焼き栗屋と　○八百屋　売物売人に変り事かはり、各遊郭を皆黄昏　は無し。車に渡せし桟板の上頃より　ひと節ある「栗や　に籠の数々邪魔家なる物を往ー栗や」の呼び声高く売り　来に置き放して商ふ様、暢気歩くなり。行灯には役者の　な者なり

名、又はやきぐり、やきた　○梯子売　こはいわゆるおはてぎんなん等、絵入にて記　らめ(夏場に見る所、くらかし、飴売りと違ひて相人(あひて)は　けに、はしごはいりまへんか問接に撒き散らす金にて買　…「奥さん歳掛一挺買ふてふ客なれば、高い安いを云　くれまへんか…。やすーしふ者も無く、愛嬌には辻占　ときやす」）を添へる等面白相なる商売　○網屑屋　角形の大籠二個又なり（収入に付て聞きたれ　は三個を車にて曳きながらど略す）　鈴を鳴らして市中を歩き屑

○豆腐の売子　砕れ易き豆　物を買う京都の風習.便所の腐を小車にてがたりがたり　紙屑はさすがに下紙とて別籠曳きながら売り歩くは如何　に区分せり。屑樹の目的は東にも可笑気に思はるれど、　京にかはらず。古着古道具何れも図の如き子車に箱を　類を言葉巧みに買ひ出すあ乗せて(中央為るは揚類)仲　り